

資金分配団体 審査会議 議事概要

通常枠 草の根活動支援事業・災害支援事業

1. **日時**：2023年7月12日（水） 開会 14：00－閉会 17：00
2. **場所**：東京都千代田区内幸町2丁目2番3号日比谷国際ビル 314
JANPIA 事務所内 大会議室、Zoom

3. 審査委員（敬称略）

- ・ 菅野拓(大阪市立大学大学院文学研究科准教授)[議長]
- ・ 米田佐知子（子どもの未来サポートオフィス代表）
- ・ 山内亮太（株式会社 ESCCA 代表取締役）
- ・ 石田祐（関西学院大学人間福祉学部社会起業学科教授）
- ・ 審査事務局：JANPIA

4. 議題

2023年度通常枠 第1回草の根活動支援事業・災害支援事業の審査

5. 申請の状況

- (1) 草の根活動支援事業：15団体 15事業（全国：6事業、地域：9事業）
- (2) 災害支援事業：4団体 4事業

6. 議事の前提

- ・ 審査会議では、公募要領に定める「選定基準」とともに、「選定配慮事項・優先選定」に留意し審査を行った。
- ・ 審査は、草の根活動支援事業、災害支援事業の区分ごとに行った。
- ・ 審査委員は審査会議に先立ち、事務局から送付された「申請書類」に基づいて手元審査を行い、審査の過程で生じた疑問については、審査委員にて分担し、各選定申請団体のヒアリングを行った。
- ・ 審査委員は手元審査・面談結果を受け、その結果を事業ごとにコメントとして整理し、審査会議に臨んだ。

7. 議事要旨

審査委員4名の出席により、菅野審査委員が議長を務め、審査を行った。議事においては、各審査委員が事前に実施した手元審査の結果を踏まえたコメントを相互に確認しながら検討し、「JANPIA 理事会に対して、選定を推薦する事業」の選定を行った。なお、審査委員へ選定申請団体名について事前に共有し、利益相反についての自己申告

があった事業については、当該団体の審査には加わらなかった。

〈利益相反自己申告の状況〉

- ・ 山内亮太
— 特定非営利活動法人 ETIC

災害支援事業

申請のあった事業について、各審査委員が推薦すべきとする意見が多いものから検討を行った。

(1) JANPIA 理事会に対し推薦する事業：以下の3事業

以下の事業については、審査委員全員から推薦すべきとの意見があり、推薦することとした。

■ 特定非営利活動法人エティック

以下の事業については、推薦すべきとの意見であったが、一部の委員からの指摘事項があり、改善に向けた期待事項を付す等により、推薦することとした。

■ 一般社団法人 RCF

- ・ 中間支援的な事業実施にあたっては、広範囲に公募広報を行うことで担い手が少ないエリアをフォローする方策や、復興に関わる多様な関係団体とのネットワーク構築など団体の外からの支援を獲得する力（受援力）を高めるための非資金的支援に取り組むことなどを検討いただきたい。

■ 一般社団法人佐賀災害支援プラットフォーム

- ・ 本件申請後に発災した北部九州の水害への支援活動と並行した事業運営となるため、当初申請されていた連携事業は地域を限定する形で規模を縮小して実施していただくなど、事業の実効性を意識した運営を期待する。

(2) 推薦を見送ることとなった事業：以下の1事業

以下の事業については、「選定基準」等に照らし、審査委員会としての推薦を見送ることとなった。

■ 公益財団法人風に立つライオン基金

草の根活動支援事業

申請のあった事業について、審査を実施した審査委員全員が推薦すべきとする意見が多い

ものから検討を行った。

(1) JANPIA 理事会に対し推薦する事業：以下の6事業

以下の事業については、審査委員全員から推薦すべきとの意見があり、推薦することとした。

■ 公益社団法人日本フィランソロピー協会

以下の事業については、推薦すべきとの意見であったが、一部の委員からの指摘事項があり、改善に向けた期待事項を付す等により、推薦することとした。

■ 一般社団法人全国コミュニティ財団協会

- ・ 事業期間3か年で確かな成果をあげていくことを目指しつつも、各地の事情とペースを尊重した伴走支援を期待するとともに、資金提供だけでなく、助成先へのノウハウ伝達や育成などの観点での伴走も期待します。

■ 一般財団法人ちくご川コミュニティ財団

- ・ 多岐にわたる活動からどれだけの質・量を伴ったコレクティブインパクトを生み出せるかが課題であり、一連のアセスメントを経た後に行政を積極的に巻き込んだ連携や、成果如何にかかわらずコレクティブインパクトに対する入念な分析が期待される。

■ 一般財団法人中部圏地域創造ファンド

- ・ 対象をさらに発展させる団体に絞り、うまくいくスキームや良質な支援チームの条件についての分析を、過去の事業も含めて継続して行っていただくことを期待する。

■ 公益財団法人京都地域創造基金

- ・ 好事例やモデルケースを横展開した事業実施にあたっては関係者が多岐にわたるため、資金分配団体が調整を担いつつ、個別の関係構築では、個々の若者の事情に添ったりソースの掘り起こしに期待します。

■ 公益財団法人ちばのWA地域づくり基金

- ・ 県外の先行事例調査や国での議論等の把握や、就労先での経営者以下の現場の支援体制など働く環境をどのように作るべきかという視点を実行団体の公募を行う前に強化し、事業を進めていただくことが望まれます。

(2) 推薦を見送ることとなった事業：以下の9事業

以下の事業については、「選定基準」等に照らし、審査委員会としての推薦を見送ることとなった。

- 特定非営利活動法人おっちラボ
- 一般社団法人日本摂食障害協会
- 特定非営利活動法人北海道 NPO ファンド
- 特定非営利活動法人宮崎文化本舗
- 一般社団法人愛知子ども応援プロジェクト
- 株式会社 Ridilover
- 特定非営利活動法人困窮者支援ネットワーク
- 一般社団法人ウェルカムジャパン
- NPO 法人いるか

以上

資金分配団体 審査会議 議事概要

通常枠 ソーシャルビジネス形成支援事業・イノベーション企画支援事業

1. **日時**：2023 年 7 月 14 日（金） 開会 9：00－閉会 12：00
2. **場所**：東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号日比谷国際ビル 314
JANPIA 事務所内 大会議室、Zoom
3. **審査委員（敬称略）**
 - ・ 高原康次（グロービス大学院 講師）〔議長〕
 - ・ 町井則雄（株式会社シンカ 代表取締役社長）
 - ・ 永沢映（NPO 法人コミュニティビジネスサポートセンター代表理事）
 - ・ 松川倫子（株式会社 CoachEd（コーチェット）カリキュラムデザイン、HatchEdu メンター）
 - ・ 審査事務局：JANPIA
4. **議題**

2023 年度通常枠 第 1 回ソーシャルビジネス形成支援事業・イノベーション企画支援事業の審査
5. **申請の状況**
 - （1） ソーシャルビジネス形成支援：9 団体 9 事業
 - （2） イノベーション企画支援：16 団体 16 事業
6. **議事の前提**
 - ・ 審査会議では、公募要領に定める「選定基準」とともに、「選定配慮事項・優先選定」に留意し審査を行った。
 - ・ 審査は、イノベーション企画支援事業、ソーシャルビジネス形成支援事業の区分ごとに行った。
 - ・ 審査委員は審査会議に先立ち、事務局から送付された「申請書類」に基づいて手元審査を行い、審査の過程で生じた疑問については、審査委員にて分担し、各選定申請団体のヒアリングを行った。
 - ・ 審査委員は手元審査・面談結果を受け、その結果を事業ごとにコメントとして整理し、審査会議に臨んだ。
7. **議事要旨**

審査委員 4 名の出席により、高原審査委員が議長を務め、審査を行った。 議事におい

ては、各審査委員が事前に実施した手元審査の結果を踏まえたコメントを相互に確認しながら検討し、「JANPIA 理事会に対して、選定を推薦する事業」の選定を行った。
なお、審査委員へ選定申請団体名について事前に共有し、利益相反についての自己申告があった事業については、当該団体の審査には加わらなかった。

〈利益相反自己申告の状況〉

- ・ 高原康次
- 特定非営利活動法人 ADDS のコンソーシアム構成団体である READYFOR 株式会社

ソーシャルビジネス形成支援事業

申請のあった事業について、各審査委員が推薦すべきとする意見が多いものから検討を行った。

(1) JANPIA 理事会に対し推薦する事業：以下の3事業

以下の事業については、審査委員全員から推薦すべきとの意見があり、推薦することとした。

- 株式会社トビムシ
- 公益財団法人長野県みらい基金

以下の事業については、推薦すべきとの意見であったが、一部の委員からの指摘事項があり、改善に向けた期待事項を付す等により、推薦することとした。

- 特定非営利活動法人北海道エンブリッジ
 - ・ 事業実施にあたっては学生が本事業に関わるインセンティブなどの設計や、規模の大きい資金の管理体制の整備・構築などを精緻化され、大きなインパクトを生んでいくことを期待する。

(2) 推薦を見送ることとなった事業：以下の6事業

以下の事業については、「選定基準」等に照らし、審査委員会としての推薦を見送ることとなった。

- 一般財団法人 社会変革推進財団
- プラスソーシャルインベストメント株式会社
- 株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ
- 株式会社ボードレス・ジャパン
- 株式会社きらり。コーポレーション
- 株式会社全農ビジネスサポート

イノベーション企画支援事業

申請のあった事業について、各審査委員が推薦すべきとする意見が多いものから検討を行った。

(1) JANPIA 理事会に対し推薦する事業：以下の 5 事業

以下の事業については、審査委員全員から推薦すべきとの意見があり、推薦することとした。

- 一般社団法人グラミン日本
- 認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

以下の事業については、推薦すべきとの意見であったが、一部の委員からの指摘事項があり、改善に向けた期待事項を付す等により、推薦することとした。

- 一般財団法人リープ共創基金
 - ・ 団体のこれまでの実績も踏まえ、実効性のある提案内容であると考え。事業実施による成果と検証への取組みにより産み出されたインパクトの評価にも期待する。
- 特定非営利活動法人 ADDS
 - ・ 発達障害の特性は多様であり、それに伴い実行団体がもつノウハウも団体により異なると考える。それぞれの実行団体がどのように支援の質の向上を図り、共通のエビデンス化につなげられるかが重要な課題であり、また事業の価値でもあることから、資金分配団体のこれまでの実績も踏まえた伴走支援に期待する。
- 公益財団法人日本国際交流センター
 - ・ 事業実施にあたっては、イノベーション企画支援事業という性格からイノベーションとしての要素を追求するとともに、課題解決と 3 年後以降の展望を見出すことも目指していただくことを期待する。

(2) 推薦を見送ることとなった事業：以下の 11 事業

以下の事業については、「選定基準」等に照らし、審査委員会としての推薦を見送ることとなった。

- 一般社団法人アスバシ
- 関内イノベーションイニシアティブ株式会社
- 特定非営利活動法人離島経済新聞社

- 特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構
- 一般社団法人全国食支援活動協力会
- 一般財団法人塩尻市振興公社
- 合同会社 JEXPO
- 特定非営利活動法人こどもたちのこどもたちのこどもたちのために
- 一般社団法人福岡デザインアクション
- 公益社団法人ユニバーサル志縁センター
- 公益財団法人あいちコミュニティ財団

以上